

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第96号

2022年9月30日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会第33回全国研究大会と第11期理事会を終えて

第11期代表理事 南出眞助

第33回全国研究大会は、2022年6月18・19の両日、兵庫県西宮市の関西学院大学において開催された。昨年の福島大学と同様に対面／オンライン併用としたところ、申込者は100名を超えた。すっかり定着した感のあるこの方式は、外国や遠隔地の発表者への負担が小さく、広い範囲で会員の参加を促し、記録動画も残せるなどのメリットが大きい。準備から当日の機器操作に至るまで会場校や一部の委員に負担が集中するので、さらに調整すべき点も残されているように思われる。

1日目午後のプログラム冒頭には、大使館のご協力によりブルース・ミラー氏（豪日交流基金AJF理事長・元駐日オーストラリア大使）による特別講演「オーストラリア大使館と日豪関係のあゆみ」をいただいた。オンラインであっても、ミラー氏の笑顔に元気づけられるスタートとなった。続いてAJF助成シンポジウムI「日豪の先住民研究における「応答」」が行われた。各発表タイトルや概要は会報95号のとおりなので再読しないが、メルボルン大学 Sana Nakata（サナ・ナカタ）氏の発表は、画面を越えて伝わってくるリアリティーに圧倒され、Q&Aでのご本人の語調や表情にもライブの迫力を痛感させられた。

2日目午前の個別研究においても、日中合同企画として1本ではあったが、ハルビン工科大学 LIU Kedong and XUE Rongli XUE 両氏からオンライン発表をいただいたことは、今後の交流促進へとつながった。2021FASICがウェビナーとなり、本学会代表として濱野健先生（北九州市立大学）に発表をお願いした経緯を思い出しても、早く安全な状況下での対面交流再開が待たれる。午後は初の2日目助成（これまでは1日目のみ）となるAJF助成シンポジウムII「越境する人と文化：コロナ禍における観光と移動をめぐる諸問題」が行われた。これも各発表タイトルや概要は会報95号のとおりだが、助成金により Monica Chien 氏（クイーンズランド大学）をお招きできたことの意義も大きかった。緊張が解けた発表後のフロアで、自己紹介や質問、雑談などを通じて交流の輪が広がることが多いからである。

対面交流という点では、1日目夕刻に開催された3年ぶりの「懇親会」も実に有意義であり、オーストラリア研究の楽しさを実感させてくれるイベントとなった。さまざまな立場の人とのふれあいは、若い研究者にとっても大きな刺激になったと思う。やはり対面とオンラインの良さはそれぞれに活かしたいとつくづく感じた。繰り返しになるが、長友淳先生を始めとする会場校および担当委員の先生方、そして毎年のことながら大使館・AJFの多大なご支援、ご協力に厚くお礼を申し上げたい。

この大会をもって第11期理事会は終了した。まだ12期継続中の理事もいらっしゃるの、あまり気の抜けた感想も言えないが、私は前代表理事の鎌田真弓先生（名古屋商科大学）が2期6年間のうち4.5年をお勤めになったあと「理事どうしの役割交代」をしただけである。他の理事の方々の経験値は高く、私がボーッとしている間にてきぱきと方向性を示してくださった。私は目新しいことを何もしていないどころか、旧弊にしばられて足を引っ張っただけかもしれない。今後は、役員任期が3年から2年に縮まったのを機に、つぎつぎと若い会員が会の運営を主導してくれるような好循環を期待している。

2. 第12期代表理事ご挨拶

第12期代表理事 永野隆行

このたび、オーストラリア学会第12期理事会の代表理事に就任いたしました。2年間どうぞよろしく願い申し上げます。

2022年6月18日、19日に関西学院大学で開催された理事会、総会の議に基づき、第12期理事会体制がスタートいたしました。新理事会は21名体制（監事2名含む）で、塩原良和総務担当副代表、栗田梨津子編集

担当副代表、村上雄一会計担当副代表、藤岡伸明企画・全国大会担当理事、そして私で構成される運営委員会を中心に、学会を運営してまいります。

第12期理事会は以下の三つの活動方針を掲げ、運営を進めていきたいと考えております。これらは特に目新しいものではありません。鎌田真弓元代表理事、南出眞助前代表理事の時代から引き継がれているものでありますが、私たち独自の工夫とやり方を取り入れて、オーストラリア学会を盛り上げていきたい所存です。

第一に、多くの会員に関わっていただける学会にしたいと考えています。研究大会や関東・関西例会での研究発表や報告が一部会員に集中しないよう、広く声をかけると同時に、企画案についても、会員からのアイデアを募集し、多くの会員に関心を持っていただくようなテーマを取り上げていきたいと考えています。

第二に、中国や韓国など東アジアのオーストラリア学会との協力関係を拡大させたいと考えております。中国オーストラリア研究基金（FASIC）の研究大会への会員派遣など中国の研究者との交流は盛んになっておりますが、今後は中国に限らず、韓国や東南アジア各国などの学会、研究者との交流を構築させたいと考えております。

第三に、国内の地域研究学会とのコラボレーションを拡大できないかと考えております。オーストラリア学会は地域研究学会連絡協議会（JCASA）の加盟学会であり、そのネットワークを通じて、他地域の地域研究学会との研究交流の可能性を模索することが可能です。また会員の中には他地域の地域研究学会の会員である方も多く、そうした方からのご協力を得て、研究交流を活発化させることも可能と考えております。

以上3つの活動方針を掲げましたが、それに限らず、会員の皆様からのご意見、ご提案をお待ちしております。わずか2年という限られた時間ではありますが、会員の皆様のご理解とご協力を賜り、理事会メンバーが一丸となって学会運営を行なって参る所存です。

3. 総会報告

日時：2022年6月19日（日） 13:30～13:45

場所：関西学院大学上ヶ原キャンパス B号館101（対面とオンラインによるハイブリッド開催）

議事に先立ち、石井由香会員が議長に選出され、南出眞助代表理事より挨拶があった後、以下、3件の報告がなされるとともに、5件の議案が審議され承認された。

【報告】

1. 2021年度一般会務報告

永野理事（総務）より、2021年度の会務について、資料に従って報告があった。

2. 画報告事項

堤理事（企画）より、企画（全国研究大会、AJF助成金申請、関西・関東例会）について、資料に従って報告があった。

3. 編集報告事項

塩原理事（編集）より、編集（学会誌『オーストラリア研究』）について、資料に従って報告があった。

【審議】

1. 2021年度決算・監査報告

村上理事（会計）より、資料に従って提案があった。福嶋監事、加賀爪監事より、2021年度会計が適正かつ正確であるとの監査報告があり、同案は承認された。

2. 2022年度予算案

村上理事（会計）より、資料に従って提案があり、同案は承認された。

3. 2022年度活動計画

堤理事（企画）より、資料に従って提案があり、同案は承認された。

4. 入退会者

永野理事（総務）より、資料に従って提案があり、同案は承認された。

5. 第12期理事・監事の選出

南出代表理事より、第12期理事会の理事候補、監事候補について、資料に従って提案があり、同案は承認された。

4. 第11期第7回理事会報告

日時：2022年6月18日（土） 10:00～12:30

場所：関西学院大学上ヶ原キャンパス、B号館104（対面とオンラインによるハイブリッド開催）

出席者：藤岡伸明、藤田智子、濱野健、一谷智子、鎌田真弓、加藤めぐみ、栗田梨津子、南出眞助、湊圭史、村上雄一、永野隆行、長友淳、塩原良和、杉田弘也、津田博司、堤純、山内由理子（以上、理事、ABC順）、福嶋輝彦、加賀瓜優（以上、監事）

【報告】

1. 永野理事（総務）より、「日本学術振興会育志賞」の学会推薦について報告があった。
2. 堤理事（企画）より、2021年度全国研究大会(福島大学)および2022年度全国研究大会(関西学院大学)について報告があった。濱野理事からは、2022年度は来日できない非会員の海外報告者の学会参加費の支払いをオンラインサービスにて行った旨が報告され、理事会は今後の方針について検討する必要があることを確認した。
3. 塩原理事（編集）より、学会誌35号の発行および34号掲載論稿データのJ-Stage上での公開について報告があり、投稿本数が減少傾向にあることを踏まえ、次期理事会で次号への投稿促進の手立てを考える必要があるとの発言があった。

【審議】

1. 村上理事（会計）より、2021年度決算について資料に従って提案があった。なお事業費支出や委託費が抑えられたことや、2021年度最後の業務委託費や学会誌印刷費・送料等の支払いが新年度に持ち越されたことにより、当初予算より黒字決算となったとの説明があった。続いて2022年度予算案について資料に従って提案があり、引き続き厳しい予算状況であるとの説明があった。また理事会は、今後会計担当者の負担軽減のあり方について検討する必要があることを確認した。
2021年度決算について、福嶋監事、加賀瓜監事より適正に行われたとの報告があった。審議の結果、2021年度決算、ならびに2022年度予算が承認された。
2. 堤理事より、2023年度全国研究大会（神奈川大学）について、Australia and Japan in the Age of Uncertainty(“The AUKUS and its implications”, “Genre of the literary exports of Australia to Japan, children’s/young adults/fantasy novels”)のテーマの下でAJF助成金申請を行なったとの報告があり、追認された
3. 塩原理事より、EBSCO社データベースへの『オーストラリア研究』掲載論稿のアップロードについて、全文データ公開に先行して、書誌情報のみデータベース上で公開し、検索が可能にする(35号の場合は、ただちに書誌情報のみ公開し、1年後に全文公開)ことが提案され、承認された。
4. 永野理事より、入会3名、退会7名、未納退会1名、終身会員1名に関する提案があり、承認された。また、入会届と同様に退会届についてもフォームをウェブ上に掲載するようにして、利便性向上を図ることを理事会として確認した。
5. 永野理事より、総会の議事次第について確認があり、承認された。

【その他】

南出代表理事より、今期理事会の任期満了に先立ち挨拶があった。

5. 第12期第1回理事会報告

2022年6月19日（日）の総会終了後、第12期第1回理事会が対面&オンライン形式で開催された。永野隆行理事が代表理事に、村上雄一・栗田梨津子・塩原良和各理事が副代表理事にそれぞれ選出され、代表理事・副代表理事に藤岡伸明理事を加えた4名が運営委員となることが了承された。また各理事の担当役職が決定された。

6. 新理事の役割分担について

代表理事	永野 隆行 (独協大学)
副代表理事	栗田梨津子 (神奈川大学 編集担当)
	塩原 良和 (慶應義塾大学 総務担当)
	村上 雄一 (福島大学 会計担当)
理事	青木麻衣子 (北海道大学 編集担当)
	阿部 亮吾 (愛知教育大学 全国大会担当)
	飯笹佐代子 (青山学院大学 編集担当)
	小野塚和人 (神田外語大学 全国大会担当)
	佐藤 渉 (立命館大学 編集担当)
	杉田 弘也 (神奈川大学 関東例会担当)
	中澤 加代 (四国学院大学 会報/広報担当 : Facebook)
	友永 雄吾 (龍谷大学 関西例会担当)
	原田 容子 (Independent Researcher 関東例会担当)
	平野智佳子 (国立民族学博物館 編集担当)
	藤岡 伸明 (静岡大学 企画・全国大会担当)
	舟木 紳介 (福井県立大学 会報/広報担当 : ホームページ)
	前川真裕子 (京都産業大学 関西例会担当)
	湊 圭史 (松山大学 全国大会担当)
	安田 純子 (郡山女子大学 会報/庶務担当)
監事	有満 保江 (同志社大学)
	濱嶋 聡 (名古屋外国語大学)

7. 2023 年度全国大会について・個別研究報告の募集

オーストラリア学会 2023 年度総会・全国研究大会は、6 月 17 日・18 日 (土・日) 両日に、神奈川大学・みなとみらいキャンパスにて開催予定です (社会情勢によってはオンライン開催となる可能性があります)。研究報告を希望される会員は、下記の Web フォームに必要事項を明記の上、2022 年 11 月 30 日 (水) までにお申し込みください。

<https://forms.gle/vruxQUTXR1mv2Pq46>

ご質問は以下のアドレスまでお願いいたします。

onozuka-k@kanda.kuis.ac.jp (小野塚和人、全国大会担当理事)

8. オーストラリア学会財務諸表

2021年度決算

支払決算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用益	100	8	△ 92	郵貯利息(4+4)
②受取会費	1,350,000	1,380,000	30,000	2019年度会費 8,000 2020年度会費 64,000 2021年度会費 1,260,000 前受会費 56,000 会費二重払い返金 △8000
③雑誌販売収入	10,000	6,285	△ 3,715	
④大会補助残金	0	0	0	
⑤その他	0	17,890	17,890	
事業活動収入計	1,360,100	1,404,183	44,083	
2. 事業活動支出				
①事業費				
大会及び研究会旅費補助等	120,000	100,000	△ 20,000	
国際学会派遣事業費用	140,000	0	△ 140,000	
事業費計	260,000	100,000	△ 160,000	
②管理費				
印刷費	350,000	0	△ 350,000	
会議費	45,000	0	△ 45,000	
消耗品費	5,000	0	△ 5,000	
通信費	60,000	5,230	△ 54,770	
謝金	40,000	19012	△ 20,988	英文校閲 4,692+4,320 査読 5000×2
業務委託費	500,000	353,718	△ 146,282	
学会賞品購入費	15,000	0	15,000	
雑費	10,000	4,624	△ 5,376	
管理費計	1,025,000	382,584	△ 642,416	
事業活動支出計	1,285,000	482,584	△ 772,416	
事業活動収支差額	75,100	921,599	846,499	
II 投資活動収支の部	0	0	0	
III 財務活動収支の部	0	0	0	
IV 予備費支出の部	0	0	0	
当期収支差額	75,100	921,599	846,499	
前期繰越収支差額	5,552,606	5,552,606	0	
当期繰越収支差額	5,627,706	6,474,205	846,499	2022年3月末現在 入金口座残高 5057038 支払口座残高 1417167

財産目録

2021年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金預金	手許現金 普通預金 新口座 振替口座 郵便振替口座	運転資金として 運転資金として	0 1,417,167 5,057,038
流動資産合計			6,474,205
資産合計			6,474,205
(流動負債)			
未払金 前受会費		翌事業年度会費	0 56,000
流動負債合計			56,000
負債合計			56,000
正味財産			6,418,205

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をないものとみなした。

監査報告書

財務諸表及び注記を監査した結果、適正かつ正確であることを報告します。

2022年 月 日
(印)
(印)

2022年度決算

収支予算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算額	差額
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	100	100	0
②受取会費・入金	1,400,000	1,350,000	50,000
③雑誌販売収入	10,000	10,000	0
④その他	0	0	0
経常収益計	1,410,100	1,360,100	50,000
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	120,000	120,000	0
国際学会派遣事業費用*	140,000	140,000	0
事業支出計	260,000	260,000	0
②管理費			
印刷費	500,000	350,000	150,000
会議費	45,000	45,000	0
消耗品費	5,000	5,000	0
通信費	80,000	60,000	20,000
謝金	20,000	40,000	△ 20,000
業務委託費	450,000	500,000	△ 50,000
学会賞品購入費	15,000	15,000	0
雑費	10,000	10,000	0
管理支出計	1,125,000	1,025,000	100,000
事業活動支出計	1,385,000	1,285,000	100,000
事業活動収支差額	25,100	75,100	△ 50,000
II. 投資活動収支の部			
III. 財務活動収支の部			
IV. 予備費支出の部			
当期収支差額	25,100	75,100	△ 50,000
前期繰越収支差額	6,474,205	5,552,606	921,599
次期繰越収支差額	6,499,305	5,627,706	871,599

9. オーストラリア学会 第30回地域研究会（関西例会）報告

前川真裕子（京都産業大学）

第30回地域研究会（関西例会）として、神奈川大学から杉田弘也氏を、追手門学院大学から南出眞助氏をお呼びし、2022年4月23日（土）に追手門学院大学総持寺キャンパス（大阪府茨木市）にて研究会を開催した。今回は久しぶりの対面での研究会となり、いつもの懐かしい参加者に加え新しい顔ぶれが揃った。参加者は全員で19名となった。研究会は杉田発表から始まった。杉田発表は2022年の連邦総選挙に焦点をあてたもので、前回の2019年連邦総選挙との比較が丁寧に分析された。日本の選挙制度とはやや異なるオーストラリアの選挙制度を概観しつつ、女性候補者と女性有権者の動向に注目しながら選挙の行方が議論された。また杉田が予測した通り、今回の連邦総選挙では労働党に政権が移りアンソニー・アルバネズィが首相となったことも興味深い。続いて、南出発表では、これまで追手門学院大学附属図書館オーストラリア・ライブラリーで収集および編纂してきた「オーストラリア論文データベース」や、オーストラリア学会会員の協同による「オーストラリア研究のためのリファレンスサイト」の立ち上げに関する経緯も合わせて紹介された。特に、南出が熱心に収集してきた、かつてオーストラリアに滞在した日本人による記録や写真のデジタル化および保存・公開が2021年度豪日交流基金の助成金を得て開始したことが説明された。これらのデータは、鎌田真弓氏を代表者とする科研調査によるスキャンデータの移管を受けたものであり、今後もオーストラリア学会員の情報提供が求められることが指摘された。

10. オーストラリア学会 第15回地域研究会（関東例会）のお知らせ

*会員以外の方も参加できます。入場無料。

日時：2022年10月29日（土）13:30 受付開始

会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス 4階 4020 教室（予定）

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/access/minatomirai/>

1階を入った正面に受付デスクを設けていますので、名札を受け取ってご入場下さい。

当日はほかの学会やイベントがあるということで、ご面倒をおかけしますがよろしく願いいたします。

講演は14時開始を予定していますが、受付・誘導の関係上13時55分までに来場をお願いいたします。

それより遅れる場合は、杉田弘也の携帯（090-9681-6810）までご連絡ください。

連絡先：神奈川大学経営学部 杉田弘也 hiroyasugita@gmail.com

なお、会場の都合上事前予約が必要とされていますので、参加を希望される方は10月26日（水）まで、上記杉田弘也のメールアドレスまでご連絡ください。

テーマ：「オーストラリアとオセアニア、特派員として見たもの」

講演者：小暮哲夫 朝日新聞前シドニー支局長

使用言語：日本語

私たちオーストラリア研究者にとっても、パンデミックでなかなか現地を訪れることができない状況が続いています。パンデミック下で現地の状況はどうだったのか、政権交代の萌芽はあったのか、昨年5月まで朝日新聞シドニー支局長を務めた小暮さんを迎え、豪州のメディア、ジャーナリストの報道の日本との違い、森林火災やコロナ禍のオーストラリア社会と政治のあり方、多文化社会や先住民などのテーマや現場、対中関係の変化、関連して周辺の島国から見たオーストラリアなど、多岐にわたってお話いただけます。

11. オーストラリア学会 第31回地域研究会（関西例会）のお知らせ

*会員以外の方も参加できます。入場無料。

日 時：2022年10月15日（土）14：00～17：00

会 場：国立民族学博物館（みんぱく）「第3セミナー室」

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

交 通：つぎの2つのアクセス方法からどちらか1つをお選びください。

①大阪モノレール「万博記念公園駅」⇒中央口⇒みんぱく（徒歩 15 分）

②JR 茨木駅・阪急茨木市駅から近鉄バス「日本庭園前」⇒日本庭園前口⇒みんぱく（徒歩 15 分）

*公園入口地図 <https://www.minpaku.ac.jp/information/access/entrance>

事前申し込み先：追手門学院大学国際教養学部 南出眞助 minamide@otemon.ac.jp

参加希望者は10月10日（月・祝）23：59までに、〔氏名・所属・メールアドレス・上記①中央口または②庭園前口のいずれか〕を明記のうえ、南出宛にお申し込みください。お届けのアドレスに「通行証」を電子送信いたしますので、当日、お名前またはスマホの受信画面をご提示いただければ「自然文化園」を無料で通行できます。企画展「海の暮らしアート展—モノからみる東南アジアとオセアニア」も観覧できます。期日以降の申し込みは自己負担となりますのでご了承ください。

懇親会：研究会終了後、JR 茨木駅付近で懇親会を実施します。参加希望の方は上記の事前申し込みに書き添えてください。

共通テーマ：トレス海峡諸島における「墓」を読み解く

発表1. 「多様な祖先を祀る「最後の家」—トレス海峡諸島民の墓の意匠から—」 木村彩音（神戸大学・院）

要旨：木曜島周辺のトレス海峡諸島民は、1860年代頃からの真珠貝産業の展開によって、アジア系や太平洋諸島民などの移民の祖先をもつ人々が多い。本発表では、彼らの墓の意匠と墓地の景観から、木曜島周辺のトレス海峡諸島民とその多様な祖先との関係のあり方を考察する。

発表2. 「トレス海峡諸島の「墓」をめぐる社会文化的背景」 松本博之（奈良女子大学・名誉教授）

要旨：トレス海峡諸島にあっては、墓の建立および「墓開き」は Tombstone Opening と呼ばれ、自らの民族性を確認する最も特徴的な儀礼である。つまり、彼ら/彼女らの社会文化を集約しているとも言える。その点について、墓碑に刻まれた銘文を窓口として、墓碑の建立および Tombstone Opening に関わるトレス海峡諸島民の社会文化的特性の一端を紹介してみたい。

12. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2022年5月に年会費を納入しても、2021年度未払いの場合、それは2021年度の会費となります。すなわち、2022年度は未納ということになります。また2020、2021年度未払いの場合、2020年度分の会費納入になります。

＜会費が未納となっている会員の皆様へ＞

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2021年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着の方はアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当宛てまでお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行しておりません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2022年3月発行、第35号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

13. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報の電子化を進めて参りました。2019 年度まで学会直前号のみ他の配布物と併せ紙媒体で発行しておりましたが、2020 年度より学会直前号を含むすべての会報を電子化しました。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせは「マイページ」に登録された電子メール宛てに送られます。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

マイページ URL : <https://www.bunken.org/asaj/mypage/User>

14. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。投稿要領・投稿申込書・投稿先はウェブサイトをご参照ください。投稿申込書もウェブサイトからダウンロードしてください。2024 年 3 月刊行予定の第 37 号の投稿は 2023 年 8 月末で締め切ります。不明な点などがあれば、編集担当理事・栗田梨津子 (ritsuko66@gmail.com) までお問い合わせください。

第 12 号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関係する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは 2022 年 10 月 30 日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先 : 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

『オーストラリア研究』ウェブサイト : <http://australianstudies.jp/publish/index.html>

15. 新刊書のご案内



ガッサン・ハージ著 (塩原良和・川端浩平監訳) 『オルター・ポリティクスー批判的人類学とラディカルな想像力』明石書店、2022 年 7 月刊行、四六版、432 頁、3,200 円+税

他者の排除や否認へ向かうナショナリズム、レイシズム、植民地主義などの現代世界の諸相を診断。ヴィヴェイロス・デ・カストロとラトゥールによる存在論の人類学、ブルデューの社会学理論、スピノザの情動論、ポストコロニアル理論、精神分析などを節合し、境界を強化するあらゆる二元論を乗り越え、他者にひらかれた、所与の空間の外部をラディカルに探求する。「他者と共に在る」ために、新たな理論的地平をひらく画期的思考実践。

写真と紹介文の出典 : 明石書店ウェブサイト

<https://www.akashi.co.jp/book/b608239.html>



飯島浩樹著 『躍進する未来国家豪州 停滞する勤勉国家日本—2032 年の世界の中心 オーストラリアに学べ』いろは出版、2022 年 7 月刊行、四六判、224 頁、1,595 円 (税込)

「世界を生き抜くオーストラリア・モデルが日本の失われた 30 年を取り戻す！」
「オーストラリアの輝きは、僕達の生き方、国の在り方に上質なヒカリとなって問いかける。21 世紀の僕達は、このままでいいのか？」(別所哲也さん)

いま日本が直面しているリスク、すなわち少子高齢化による人口減、資源、食糧リスク、戦争、災害リスク...これら最悪のシナリオを回避し、コロナ後の世界をより良いものに変えるには、今何をすべきか? そのヒントを与えてくれる国が、オーストラリアだと私は確信しています。(著者)

写真と紹介文の出典 : MCMS ウェブサイト <https://www.mcmstv.com/general-8>



上田豪著 『SDGsを指すエコツーリズムの実践と理論—コロナ下のオーストラリアの現場から』ブイツーソリューション、2022年1月刊行、四六判、128頁、2,750円（税込）

近年、地球環境や経済・社会の持続可能性への世界的な危機意識の高まりを受け、SDGsの流れが加速的に進んでいる。

その流れの中で、これから観光はいかに対応していけば良いのか？

オーストラリアで20年以上のエコツアーの経験を基に実践と理論を提案。

サステナブルツーリズムとは何か、SDGsとの関係性とは何か、初めての人にも丁寧に分かりやすく解説。

観光業に携わる人、観光業を目指している人に読んでもらいたい一冊。

写真と紹介文の出典：ブイツーソリューションウェブサイト

<http://www.v2-solution.com/booklist/978-4-86741-011-0.html>



ブルース・パスコウ著（友永雄吾訳）『ダーク・エミュー アボリジナル・オーストラリアの「真実」—先住民の土地権と農耕の誕生』明石書店、2022年6月刊行、四六判、324頁、3,080円（税込）

オーストラリア先住民が有史以前から大陸において、高度な農耕、養殖、定住といった文化を発展させていたことを当時の入植者が記録した多くの歴史資料をもとに論じる。既存の狩猟、漁労、採集の民という先住民のイメージを大きく転回させるきっかけとなった話題の書。

写真と紹介文の出典：明石書店ウェブサイト

<https://www.akashi.co.jp/book/b608359.html>

【オーストラリア学会事務局】（各種届出・連絡先）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL：03-6824-9372 FAX：03-5227-8631 Email：asai-post@bunken.co.jp

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当：中澤加代（四国学院大学）]